

2010.1.1 発行 不老川流域川づくり市民の会 代表 相馬和彦  
 連絡先 04-2965-1741 <http://furougawa.mods.jp/>



護岸が削られ、通学路の橋崩壊 狭山市堀兼地区 2009年10月

### 埼玉県知事賞を頂きました

当会は11月14日埼玉県民の日に、さいたま市の埼玉会館で環境保全功労賞を受賞しました。平成9年結成以来いろいろな活動を行ってきましたが、この度受賞できました事は、活動状況を皆様に認めて頂いたものと会員一同感謝していると共に、ご指導、ご協力頂きました皆様に紙面を借りて厚くお礼を申し上げる次第です。

“不老川を自然豊かな川に”をモットーに活動してきましたが、水質も向上し環境基準(Eランク)をクリアし河川工事もかなり進んで来ました。しかしながら今年の夏行われた県の魚類調査で獲れたアユは、物凄い石けんの香料の臭いで食べられませんでしたし、河川工事は新河岸川水系の最上部に位置しているためか、ようやく川越市内が完了ただけでまだ24%に達したに過ぎず、環境対策や洪水対策はまだほど遠い状況です。

当会としては、この会報やHPで広報活動を行うと共に、観察や提案等幅広い活動を続けたいと思いますので、より一層のご指導を賜りますようお願いいたします。(相馬)



大森調節地に自生していたが最近では少なくなった。穂を子供たちはウィンナーと呼び、古事記の「因幡の白兔」の話は知らない人が多くなったが、漢方薬の元祖とも言われている。

# 「床上浸水対策事業」で 浸水被害はなくなるか

現在、不老川で行われている「床上浸水特別緊急事業」は最終段階に入ろうとしているので、確認の意味も込めて経過や現状を下記する。

## 1 床上浸水対策特別緊急事業について

平成17年6月の洪水対策として「行政と市民が一体となって進める」と発表したのが、ようやく18年度工事で当会の提案が一部採用されただけであった。

概要は 大橋の流量は現在18t（1秒間に流れる水量のこと）なので下流の河川流量に合わせて25tに、西武新宿線橋梁は現状23tなので同様に45tに約2倍多く流れるように拡げる。結果、橋の上流の洪水を減少させる。

それを受けて下流の狭山工区（権現橋から草刈橋）と川越市内の川幅を広げる工事を行う、の2点で川越市分は完了し、大橋と西武線は工事中、狭山工区1.6kmの一部は完成した。

## 2 狭山工区について(下流部分)

19年度工事から萱場センター長（独法土木研究所自然再生センター）を座長とする、地域住民、市民団体、関係行政をメンバーとする「不老川かわづくり検討委員会」が設立され、平成19年9月から5回の会議で、約800m区間の工事内容の検討を行った。概要は、一部納税猶予農地があり買収できないところがあるので約500mしか川幅が広げられず、でこぼこの川となる。通学路橋（表紙）上流で溢れるので土嚢を積むと提案されたが、設計変更した。「多自然川づくり」とする。

以上で平成19年から権現橋と草刈橋の架け替え工事も行い、平成21年度3月終了した。

## 3 狭山工区について(上流部分)

平成21年9月に検討委員会（座長は土屋群馬大教授）が招集され、下流の工事の状況報告と内容の検討等3回の会議が行われ、次回で今後の工事の設計案が提示され決定する予定である。工事状況の概要は

予定の用地買収ができなかったため、拡幅区間は300mだけになった。拡幅区間で溢れる見込みとなったので左岸



権現橋の下にも砂礫の堆積

に1箇所、両岸に1箇所土嚢を積んだ。草刈橋と権現橋の下に砂礫が堆積したので取り除いた。又、拡幅部分にも大量の砂礫が堆積した。以上で、検討委員会で決定したことが実施されず、10月13日に通学路橋が崩落していたが、第2回検討委員会（10月16日）で報告されず、第3回（12月11日）で「上流の落差工下の河床が滝壺状に深くなり鋼矢板が流されたことが原因」と報告された。（通学路橋は土地所有者の協力により、架け替えられると聞いている）。

## 4 特別緊急事業以外の2箇所の工事について

当初は「下流の流量に合わせて橋を拡げるので、下流の工事は行わない」との説明だったが実際は下記の工事が行われている。

大橋下流の堤防かさ上げ工事（飯能県土施工）  
西武新宿線下流の河道拡幅工事（川越県土）

以上の2箇所で、施工理由は「は流量計算（25t流れない箇所）に間違いがあったから、は実績降雨（平成10年、14年）対応で表記床上浸水事業とは無関係である」と、当会として埼玉県から説明を受けた。



入曾橋上流拡幅工事

また、この工事については狭山工区検討委員会で報告や検討は全く行われていない。

## 5 この間の河川工事についての疑問及び提案

不老川洪水対策工事が遅れていた中で、床上浸水緊急事業によって大きく前進したことは高く評価出来るが、ここにきて色々問題が起きてきていることは上記の通りである。

大規模な補足工事（4項）による下流への影響。

納税猶予が切れるまで15年かかる所は狭いままになるが、その間の対策。

拡幅区間の大量の砂礫の処理。

以上を検討し、適切な対策を実施すると共に検討委員会の立場を確立して、洪水対策は勿論、多自然かわづくりを目指して議論を進めなければならぬ。

（文責 相馬和彦）

**災いを  
やり過ごす  
智恵を**

「最近の豪雨災害に学ぶこれからの地域防災」と題しての講演会から「自分の命は自分で守れ」

というメッセージを受け取った。

昭和34年の伊勢湾台風をきっかけに「災害基本法」が制定され、行政主導の防災体制により、犠牲者は数千人規模から最近では百人未満に激減した。犠牲者をゼロにするにはこれまでの行政主導の防災では限界と弊害があるという。

特に最近の観測も不可能な局地的豪雨に対応するには堤防などの治水施設だけでは限界がある。50年、100年に一度の洪水を考えての河川工事によって、普段はただ寒々と広い川底に水がちょろちょろという風景にな

かねない。

また、避難勧告一本で地域住民の命を守る事には無理がある。そして防災体制が整ったこの50年は行政依存、危機に無防備の住民を増やした。

これからは、住民、行政が共に主体的に自然災害に立ち向かう地域社会を作らねばならないし、自らの命を守り抜く智恵を伴った自助意識が求められている。「行政に限界があるから自助」という受け身の自助でなく、地域の特性、災害特性に応じた「災いをやり過ごす智恵」「命を守る術」を身につけることである。

水に親しむ機会もなく、危機に身をさらされる経験もない今は、様々な情報を人ごととせず、自分に引きよせ、想像力を働かせることで経験とすることも有りであろう。(村手)

**電車の中から見えた幻の風景**

**出発点はあの緑の岸だった**

クリーンエイドに参加して

武井直博



電車の中から一瞬、幻のような風景を見た。狭山に住所を移してまもなくのことである。車窓に流れる住宅街の中に、田園風景を切り取ったかのような光景が見えた。翌日、見逃さないように窓の外を眺める。小さな川が流れ緑の岸の美しい風景であった。私は自分の住む町に流れる川で遊んだ経験は無い。町に流れる川は排水溝であり、川は遠くに出かけて触れるものであった。この風景が幻ではなく、本当に遊び楽しめる場所であつたらどんなにいいだろうと気になっていた。

3年前からクリーンエイドに参加するようになった。幻の風景は不老川であると知った。電車から見える風景が清掃のスタート地点であった。初めて立った川岸はゴミが目立ったが幻滅はしなかった。排水溝のような川では無かったからである。

今年もクリーンエイドに参加した。担当した僅か200mの距離の感想であるが、ゴミは少なくなった。蓄積されたゴミが少しずつ減っているからであろうか。地元の方々のクリーン活動の積み重ねの成果だと思う。ただ、昨年と比べて何か違う気がした。昨年は見かけることができた鳥と魚の姿がない。それだけで川は何か沈黙しているような印象であった。

不老川が抱える課題は多いと思うが、関心を持ち続けていきたいと思う。この風景が幻のままに終わるか、身近な楽しみ場所となるのか。まだあきらめることは無いと思う。



**荒川クリーンエイド in 不老川**

11月1日、28名参加。護岸工事のため、今年はい曾橋から二セアカシアの橋まで。お菓子の包み紙などプラスチック製のゴミが多かった。水質調査はCOD, 硝酸窒素で高い数値が出た。臭いが強いと言う声も。

12年間欠かさずやってきたいもほり、今年も畑の恵みに対面し、各々ずっしり2袋ずつの収穫。スイ豚汁は好評で、6杯おかわりのつわもの(熟年紳士)もいた。

## 不老川の アユの味は？

9月の川越県土事務所が行った魚類調査で二〇センチほどのアユが数匹獲れました。その一匹をもらってきて冷凍したものを会の皆さんに見てもらったが、そのアユを入間市の飲み仲間と焼いて食べてみたんですよ。

最初Aさんが頭の方をアングツと噛んでウエーッという顔をした。次に私がお腹の方をアングツと噛んだらウエーッとなった。ものすごい化粧石けんにおいが、鼻から頭にかけてツーンときたんです。あわてて焼酎のがぶ飲みでした。そのあとB君がしっぽの方から噛んだら合成洗剤のにおいがしたと言いました。アユは香魚といって、香りのいい魚で大量に泳いでいると河原一帯にスイカの匂いがするそうです。

ちなみに、柳瀬川上流の方で獲れたアユはおいしかったけど、清瀬市の下水処理場の下流のはドブの味がしたということです。

(相馬談)



### 山王塚便り

山王塚のアルバム作りに  
皆で取り組んでいます。

埼玉県「里の山守活動」に参加をして5年経ちました。これまでの活動をまとめ3月に冊子を出す予定です。

乞 ご期待！

おさそい



トークイベント

### 不老川と魚

聞きたい、

知りたい、

語りたい！

このところ、不老川で魚が沢山見られるようになりました。

新河岸川流域の魚事情に詳しい人のお話を聞き、皆で語り、考えていきましょう。

日時：3月6日(土) 13:00より

場所：入曽公民館 第一学習室

講師：小林 一巳さん

(新河岸川水系水環境連絡会)

問い合わせ：村手(2957-3425)

### = 流域情報 =

としとらず公園(狭山市)再生検討中  
埼玉県の川の再生事業(21年度)の指定を受けて「不老川における川の再生検討会」が作られ、子供達が安全に魚とりやザリガニとりを楽しめる川にする等の検討が行われている。22年春には完成の予定である。

#### 里川づくり県民推進事業

入間市の不老川を対象にして20年度事業として、埼玉県、入間市、市民団体等が一体となって実施してきた。今年の会議では、入間市が家庭排水対策を調整区域を対象に行うことと、簡単な家庭排水浄化施設の検討をするよう要望した。

### 川づくりに参加しませんか

定例会：毎月第3土曜日 13:30~

年会費：1000円 詳細は下記世話人まで

入間市 相馬 04-2965-1741

狭山市 村手 04-2957-3425

所沢市 小黒 04-2923-8946

川越市 高木 0492-43-9828

編集後記 私たちが残したいと願ってきた新宿線の林の一角を「幻のような風景」として一瞬の車窓から脳裏に焼き付けた若い武田さんの文章に、ハッとす。昨年からの河川拡張工事が始まって、あの緑の草地と岸は消えた。入曽橋まで護岸拡張工事が続いている。記憶が薄れるのも早い。だが、「まだあきらめることは無いと思う」という文末の言葉を励みとしていきたい。いけるかしら？ (H.T.)